

令和元年度 南小学校英語科特例校の実施状況について

大泉町立南小学校

1 英語科特例校の内容

小学校全学年において、「英語科」を実施する。

近年、国際化・グローバル化が進んでおり、今後その流れはますます大きくなることが予想される。令和2年度からの新学習指導要領では、3・4年生で「外国語活動」、5・6年生で「外国語科」が新設され、外国語教育の一層の充実を図ることとなっている。そこで、令和元年度において、特別の教育課程を実施し、早期から英語の学習を始めて英語教育の充実を目指していく。

2 児童アンケートの結果

<質問項目>

①英語の時間は、楽しいですか？	91%
②英語の時間では、先生や友達とすすんで英語で話していますか？	76%

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・少しずつ英語を覚えてきているから楽しい。
- ・新しい言葉を覚えられてうれしい。
- ・友達とのやりとりは楽しく話せる。

3 保護者アンケートの結果

<質問項目>

①小学校1年生から、英語の授業を実施することは、英語への関心を高めることに役立っていると思いますか？	95%
②お子さんは、英語の授業を楽しみにしていると思いますか？	90%

(数値は肯定的な回答の合計割合)

<自由記述>

- ・ネイティブの発音を生で聞かせてもらえるので、子どもの発音を聞いて驚いた。
- ・苦手意識を持たずに学び、中学の英語にスムーズに入っていけるのはよい。
- ・英語にふれる機会がなかなかないので低学年から授業で学べることはありがたい。

4 教職員アンケートの結果

<質問項目>

①小学校1年生から、英語の授業を実施することは、英語への関心を高めることに役立っていると思いますか？	96%
②児童は、英語の授業を楽しみにしていると思いますか？	100%

(数値は肯定的な回答の合計割合)

5 成果と課題

<成果>

- ・低学年から英語に触れており、リスニング力がついている。
- ・低学年はチャンツやゲームを取り入れており、英語の授業を楽しみにしている児童が多い。
- ・普段挙手が少ない児童も英語の授業では楽しみながら積極的に参加できている。

<課題>

- ・高学年になると「英語が分からない。」「はずかしい。」などの理由で英語の授業を苦手になっている児童もいる。
- ・高学年は中学校英語への接続を見据え、英語専科教員による授業を実施する必要がある。

6 学校関係者（学校評議員）の評価結果

- ・リスニング力は、年齢が小さなうちから始めるのがよい。
- ・小さい子は、例えば、「英文法」のように勉強を意識しないで英語に親しんでいけるのでよい。
- ・英語の学習では、外国籍と日本人の差がないので、交流できてよい。
- ・私たちが小学生の時代は、英語の授業がなかったのでうらやましい。
- ・中学校での勤務の経験から言うと、英語に関する興味を持続がみられた。
- ・英語科特例校の成果を感じられた。